



公立大学法人

青森県立保健大学

Aomori University of Health and Welfare

青森県立保健大学大学院健康科学研究科  
健康科学専攻博士前期課程

MPH(Master of Public Health)コース開設記念シンポジウム

青森県の健康を丸ごと探求し、  
世界へ還元するMPH

## 資料集

主催 青森県立保健大学大学院、ヘルスプロモーション戦略研究センター、  
キャリア開発センター

後援 青森県

# 目次

- ごあいさつ .....p.1
- MPH コースの開設にあたって .....p.3
- 講演資料
  - 講演1 中山 健夫 氏 .....p.7
  - 講演2 長尾 式子 氏 .....p.13
  - 講演3 河原 和夫 氏 .....p.15
  - 講演4 中村 正和 氏 .....p.19

## シンポジウム プログラム

日時 令和4年9月3日(土)10:00~12:00

会場 青森県立保健大学 教育研究C棟3階 N講義室2

○開会挨拶

○MPH コース開設の趣旨説明

○シンポジストによる講演

テーマ「MPH コースの役割と期待について」

講演1 中山 健夫 氏(京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野・教授)

講演2 長尾 式子 氏(北里大学大学院看護学研究科 先端治療看護学・教授)

講演3 河原 和夫 氏(医療法人社団崎陽会 日の出ヶ丘病院・院長、東京医科歯科大学・名誉教授)

講演4 中村 正和 氏(公益社団法人地域医療振興協会 ALSP® DE-ジョン研究センター・センター長)

○休憩

○意見交換および質疑応答

○閉会挨拶

## ごあいさつ

青森県立保健大学大学院健康科学研究科

保健・医療・福祉政策システム領域公衆衛生研究室

大西 基喜

「MPH コース開設記念シンポジウム」の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。この開催の日を迎えることができたことをたいへん喜ばしく感じております。

このシンポジウムは、本学大学院において、令和 5 年度から設置される MPH (Master of Public Health) コースの内容や必要性を知っていただくとともに、「公衆衛生」について皆様とともに考え、意見交換を図り、理解を深めることを目的としております。

青森県では、長きにわたり全国の中でも低位で推移している平均寿命の問題をはじめとして、感染症等の健康危機管理、生活の質向上といった公衆衛生上の課題が山積していますが、その解決のための活動の中核を担う人材が不足しており、中長期的な視野に立った育成が必要とされています。本学大学院における MPH コースの開設により、青森県のみならず、国内外の健康の保持・増進や健康課題の解決に、大きく寄与すると信じています。それゆえ、本シンポジウムの開催は、「地域の健康課題の解決を図ることができる高度の公衆衛生に関する専門知識や技術を有し、中核となる人材を育成する」という本学大学院の決意といっても過言ではありません。

本日のシンポジウムのテーマは、「MPH コースの役割と期待について」です。たいへんエキサイティングなメモリアルシンポジウムになると思います。参加して下さった皆様におかれましては、公衆衛生について理解を深めるとともに、意見交換を行っていただき、意義深いシンポジウムとなることを願っております。

このページは空白です

# 「MPH コースの開設にあたって」

大西 基喜

(青森県立保健大学大学院健康科学研究科

保健・医療・福祉政策システム領域公衆衛生研究室)

## 公衆衛生大学院 (SPH) とMPH

- 公衆衛生は欧米を中心に社会の課題に直接関わる実務的な学問として発展してきた。
- 専門教育が最も発展している米国では、1916年 ジョーンズ・ホプキンス大学に、1922年ハーバード大学にSPHが開校した。
- 米国のCEPH (米国公衆衛生教育協議会) 認可校は2020年には200校を超え、公衆衛生上の指導的人材：MPH (公衆衛生学修士) を多く輩出してきた。
- この2校を筆頭に海外のSPHは、わが国のMPHの育成にも大きな寄与を果たしてきた。

## 青森県立保健大学院

## MPHコースの開設にあたって

青森県立保健大学院  
保健・医療・福祉政策システム領域  
公衆衛生研究室  
大西基喜

## 日本のMPH教育機関

公衆衛生大学院 (SPH) 6校	2014	岡山大学
2000 京都大学*		産業医科大学
2001 九州大学*		慶應義塾大学
2007 東京大学*	2015	東北大学
2011 帝京大学*		広島大学
2017 聖路加国際大学*		高知大学
2021 静岡社会健康医学大学院大学†	2017	北海道大学
		三重大学
	2018	国際医療福祉大学
		東京医科歯科大学
プログラム校 (非専門職大学院) 15校	2019	神奈川県立保健福祉大学†
2008 大阪大学	2022	愛媛大学
筑波大学	2023	青森県立保健大学院 (予定) †
長崎大学		

\*専門職大学院 †県立

## 当MPHコースの概要

- ミッション**
  - 基本的には地域の公衆衛生の実務に指導的立場で貢献するエキスパートを育成すること。
- 概要**
  - 修業年限は2年 (3年の長期履修制度も設定)
  - 出願資格は基本4年制大学卒業レベル (社会人特別選抜を含む)
    - ※試験：英語、専門科目、面接
  - 学位：修士 (公衆衛生学)
  - 定員：10名 (他コースも併せて)
  - 経費：入学金 225,600円 (県内)、授業料 535,800円





## 人材募集 「想い」を実現しよう！

- 公衆衛生業務にかかわる人、関心ある人
  - 専門職、事務職
- 医療・介護職で、もう3歩進みたい人
- 教育の奥行きを広げたい教員の人
- もっと先を覗きたい大学生
- . . .

## 想定される効果

- 青森県（日本・世界）の公衆衛生従事者の育成
  - 多様な職種<sup>1</sup>の教育、公衆衛生医の育成
- 地域保健医療福祉分野従事者の現場への還元
- 青森県（～日本・世界）の公衆衛生的課題解決に寄与
  - 数多くの課題への多角的取り組みを通じて
- 大学院教員・科目の充実とその波及効果
- 多様な学生の交流による学生の質向上

# 講演1 中山 健夫 氏

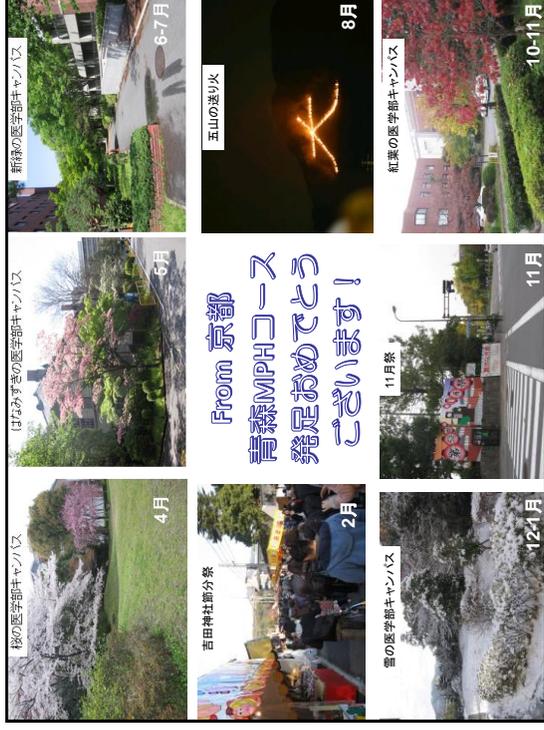
(京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野・教授)

青森県立保健大学  
2022年9月3日

大学院MPHコース開設記念シンポジウム

## 青森MPHへのエール

京都大学大学院医学研究科  
社会健康医学系専攻健康情報学分野  
(公立大学法人 静岡社会健康医学大学院大学)  
中山健夫



### パブリックヘルス : Public Health

**共同社会の組織的な努力と、  
情報に基づく選択**によって、  
疾病を予防し、寿命の延長、健康  
増進を図るサイエンスであり、ア  
ートである。 (Winslow, 1920)

### 日本国憲法 第25条

すべて国民は健康で文化的な最低  
限度の生活を営む権利を有する。  
国はすべての生活部面について、  
**社会福祉、社会保障及び公衆衛生**  
の向上及び増進に努めなければな  
らない。

# 医師法 第1条

医師は医療および保健指導をつかさどることによって、**公衆衛生**の向上および推進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする

# 人間の科学：疫学

- 多様な**人間**を**集団**として見ることで、**病気や健康**に関する出来事**の「因果関係」**を**解明し**、**予防や治療に役立てる科学**
- Evidence-based** **アプローチ**の**基盤**

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻  
2000年4月 バブリックヘルス領域の国内初の専門（職）大学院 として開設  
Kyoto University School of Public Health : 京大SPH



分野…医療統計学、**医療疫学**、**薬剤疫学**、**ゲノム疫学**、**医療経済学**、**医療倫理学**・**遺伝医療学**、**健康情報学**、**医学コミュニケーション**、**環境衛生学**、**健康増進・行動学**、**予防医療学**、**社会疫学**、**健康政策**・**国際保健学**、**環境生態学**、**人間生態学**、**臨床情報疫学**（臨床研究者養成[MCR]コース）、**知的財産経営学**分野

# 国内の公衆衛生大学院 MPHプログラム

大学院	専攻	大学院名	開設時期	募集分野	出社教員	学生員(学)	博士課程
1	京都大学大学院	医学研究科社会健康医学専攻	2000年4月	150名(博士課程10名)	150名(博士課程10名)	34	博士課程
2	東北大学大学院	医学系研究科社会健康医学専攻	2007年4月	160名(博士課程10名)	35	30(11博士課程)	博士課程
3	筑波大学大学院	人間総合科学部グローバルデザイン専攻疫学	2008年4月	100名(博士課程10名)	25	10	博士課程
4	大阪大学大学院	医学系研究科社会健康医学専攻	2008年4月	50名(博士課程10名)	20	10	博士課程
5	明治大学大学院	公衆衛生学専攻	2011年4月	100名(博士課程10名)	15	30	博士課程
6	九州大学大学院	医学系研究科疫学・管理学専攻	2011年4月	50名(博士課程10名)	20	20	博士課程
7	岡山大学	医学系研究科社会健康医学専攻	2014年4月	50名(博士課程10名)	10	5	博士課程
8	慶応義塾大学大学院	慶応義塾大学専攻士健康学	2014年4月	100名(博士課程10名)	20	10	博士課程
9	慶応義塾大学大学院	看護学専攻 看護学システム研究科	2015年4月	100名(博士課程10名)	20	10	博士課程
10	慶応義塾大学大学院	看護学専攻 看護学システム研究科	2015年4月	100名(博士課程10名)	20	10	博士課程
11	広島大学大学院	医学系研究科社会健康医学専攻(修士課程)	2015年4月	100名(博士課程10名)	20	10	博士課程
12	長崎大学大学院	看護学専攻 看護学システム研究科	2015年4月	100名(博士課程10名)	20	10	博士課程
13	北摂大学大学院	医学系研究科社会健康医学専攻	2017年4月	100名(博士課程10名)	20	10	博士課程
14	名古屋大学大学院	医学系研究科 公衆衛生学専攻	2017年4月	100名(博士課程10名)	20	10	博士課程
15	名古屋大学大学院	医学系研究科 公衆衛生学専攻	2017年4月	100名(博士課程10名)	20	10	博士課程
16	京都府立医科大学	医学系研究科社会健康医学専攻	2018年4月	100名(博士課程10名)	20	10	博士課程
17	京都府立医科大学	医学系研究科社会健康医学専攻	2018年4月	100名(博士課程10名)	20	10	博士課程
18	神戸市立看護専門学校	看護学専攻 看護学システム研究科	2018年4月	100名(博士課程10名)	20	10	博士課程
19	岡山県立社会健康科学大学院	社会健康科学専攻	2018年4月	100名(博士課程10名)	20	10	博士課程



## 改定医学教育モデルコアカリキュラム 医師に求められる基本的な資質・能力

\* 2024 (令和6) 年度の入学生から対象 10 + α年後の医師像

1. **プロフェッションナリズム**
2. **総合的に患者・生活者を診る姿勢 (新設)**
3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
4. 科学的探究
5. 専門知識に基づいた問題解決能力
6. 情報・科学技術を活かす能力 (新設)
7. 患者ケアのための診療技能
8. コミュニケーション能力
9. **多職種連携能力**
10. **社会における医療の役割の理解**

10

## 10-1 社会保障

**憲法で定められた「生存権」を守る社会保障制度、公衆衛生とは何か、地域保健、産業保健、健康危機管理を理解する。保健統計の意義・利用法を学ぶ。**

### 第3層 学修目標 (中項目)

- 10-1-1) 公衆衛生
- 10-1-2) 社会保険、公的扶助、社会福祉
- 10-1-3) 地域保健
- 10-1-4) 産業保健
- 10-1-5) **健康危機管理**
- 10-1-6) 保健統計

11

## 健康の定義

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity (WHO 1946) .

健康とは完全な肉体的、精神的・社会的に良好な状態であり、単に疾病や病弱の存在しないことではない。

The Definition has not been amended since 1948.  
<http://www.who.int/about/definition/en/>

12

13

## 「健康」の再定義

- Huber M, et al. How should we define health? BMJ. 2011 Jul 26;343:d4163.
- 「社会的、身体的、感情的困難に直面した時に発揮される適応・変化 (adapt)と自己管理の能力を重点」とする方向に変えることを提案

<http://nodahiroo.air-nifty.com/sizukanahhi/2012/07/bmj2011343-0eae.html>

14

### 日本医師会公衆衛生委員会答申 「健康寿命延伸のための予防・健康づくりのあり方」 2018年

- 従来考えられてきた「疾病がないこと」や、WHOが定義した「理想論」に限定することなく、
- 本人が自分らしく生きる、その意志決定ができる能力を持つことで、それを支援する環境や過程を含めて健康を捉える

© The Japanese GPHH, Japan

15

## 「健康寿命」は「生命の始まり」から

エビデンス：「エビデンス（後成説）」と「エビデンス（遺伝子）」が起源。遺伝子のEにさらに修飾が加わったEの遺伝子（国立成育医療研究センター）

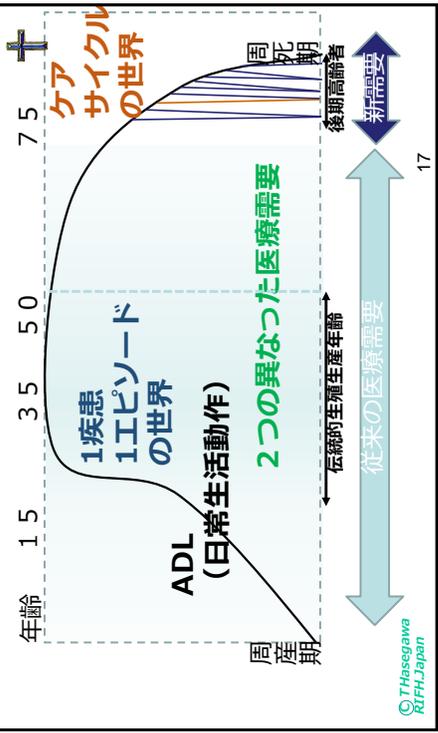
(提供・森脇太郎先生) Barker 仮説 = DOHaD (Developmental Origins of Health and Disease)

16

## ライフコースデータ

良質で効率的な医療・介護のためには、関係者（医療提供者、介護担当者、行政など）の情報共有が必要  
**縦割りのシステムを越えたデータ基盤の構築を**

### ライフコースによる課題とニーズの変化



### 認知症の終末期：4つの重要項目

望ましい場所で過ごせること	その人らしさを維持できること	穏やかに最期を迎えること	本人が満足を感じる
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 快適性</li> <li>• 望んだ場所</li> <li>• 馴染みの場所</li> <li>• ケア資源</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 個性の重視</li> <li>• 良い人間関係</li> <li>• 普通の暮らし</li> <li>• 尊厳の維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 症状の緩和</li> <li>• 自然な様子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人生への満足感</li> <li>• 意向の達成</li> </ul>

Nishimura M, Kohno A, van der Steen, JT, Naganuma T, Nakayama T. Conceptualization of a good end-of-life experience with dementia in Japan : a qualitative study. *Int Psychogeriatrics*. 2019 Aug 28;1-11.



青森県立保健大学MPHコースのご発展を心よりお祈りしております!

## 講演2 長尾 式子 氏

(北里大学大学院看護学研究科 先端治療看護学・教授)

## MPH コースの役割と期待について:臨床看護学と MPH コースの融合

北里大学看護学部 長尾 式子

### 概要

医療保健福祉の専門職は、ある程度経験年数を経ると、自分の専門性やキャリアについて考える時期が来ると思います。その選択肢として青森県立保健大学大学院が新たに開設された Master of Public Health (MPH) コースは、キャリアを考える時に、学際的なコース内容となっており、とても魅力的であることは言うまでもありません。この学際性あふれる MPH コースが青森県や日本、世界にどのように還元するのかについては、高名な他のシンポジストの先生方のお話から、その魅力を知ることができると思います。その一方で、多くの方々、MPH コースを修了した自分の姿をイメージすることが難しく、MPH は自分に何をもたらすのだろうか、MPH コースに進むことで、どのような展望があるのだろうかという思いもあるのではないのでしょうか。そこで、MPH コースを修了した私の経験から、MPH コースの役割と期待、展望を考えたいと思います。

青森市の高等学校を卒業した私は、東京都で看護基礎教育を受けました。卒業後、都内の急性期総合病院に看護師として務めました。臨床経験の中で、さまざまな事例を通して、人の生死をめぐる心理的、社会的、倫理的問題に直面してきました。この臨床現場で直面した問題に取り組むために何を学んだら良いかささまざまな人に相談し、調べていきました。その過程で私は、看護学以外の学問領域で医療ケアを俯瞰したいと思い、大学院 MPH コースに進学しました。前述した MPH コースの学際性から、年代、職業もさまざまな経歴を有する人達が、MPH コースのさまざまな分野を専攻しており、彼らとコースワークで議論する機会に恵まれました。彼らは、今日、さまざまな分野で活躍し、私の看護教育活動や研究活動に刺激となっていると同時に、今日の私の多職種連携・協働できる医療人教育、研究へとつながっています。そして、彼らを通じて新たな人脈、ネットワークを作ることができております。

MPH コースを修了した後、今日に至るまで、紆余曲折でしたが、一つひとつ歩んで来た道のりを改めて振り返ると、看護師である私が MPH コースを修了したことで、私自身が学際的発想、言い換えれば、公衆衛生学と臨床看護学の融合することができたように思います。対象者の捉え方や、現象の解釈が変わり、教育活動、研究活動の幅や深さを感じています。この様な教育的背景を持たたことで、看護以外の教育活動や研究に参加する機会となりました。みなさんにとって、今の自分の専門領域に MPH コースの学際性が加わることは、未知ではありますが、これまでの自分の姿とは異なる新たな自分のキャリア開発へとつながるはずで

## 講演3 河原 和夫 氏

(医療法人社団崎陽会 日の出ヶ丘病院・院長、東京医科歯科大学・名誉教授)

## 医療を俯瞰する

### I. はじめに

わが国は人類が経験したことがない速さで、少子高齢社会を迎えた。未だ少子高齢化のスピードは衰えず、加えて人口減少にも直面している。

人口減少という社会環境下で働き方改革も俎上に上っている。さらに、医療の質向上を目指した新専門医制度も創設された。

これら社会・経済環境の変化は、我々の日々の生活や保健医療福祉提供体制にも大きな影響を与えている。

### II. 社会・経済環境の変化及びその影響

#### 1. 少子高齢化および人口減少

経済の停滞・衰退、社会保障費の増大、働き手の減少、患者数の減少を招き、財源確保、費用負担の問題を惹起し、社会保障制度の根幹を揺るがしている。また、患者数の減少や医療費の抑制などにより、将来的に医療機関の経営に大きな影響を及ぼす。医療機関の統廃合も選択肢として出てくることが予想される。

#### 2. 働き方改革、新・専門医制度

医師などの所属施設による時間外労働時間の一括管理により、大学病院などから中小病院に医師が派遣されにくい状況となり、当直医や外来担当医の確保が難しくなる。これも医療機関の経営や統廃合の影響因子である。

#### 3. 保健・医療・福祉の枠組み及び関係者の変化

公的保険制度及び診療報酬制度の理解、保険者機能の強化、医療が予防領域に拡大した例として、特定健診・保健指導がある。介護領域には介護医療院、地域包括ケアシステムとなって領域を広げている。また、公的保険制度以外の医療の模索も行われている。

これらは国の基本的制度に関わる問題であり行政府や立法府の効果的な対応が求められる。

#### 4. 医療の質・医療機能評価、医療安全

医療機関の日々の業務を客観的・第三者的に評価するために、日本医療機能評価機構、ISO、JCI などの団体による評価がある。第三者評価は、医療の質を高め、安全思想を普及し、更なる安全対策を講じるためにも必要である。

#### 5. その他

わが国の医療産業は、海外との交易では大幅な輸入超過状態にある。医療を支える国の産業基盤が脆弱なものになっている。行政府や立法府の積極的な産業育成政策が望まれる。

### Ⅲ. 重要なことは……

われわれが置かれている状況をデータから客観的に知らなければならない。そして、医学的、法律学的、経済学的、経営学的、さらに社会学的観点から多面的・重層的にデータを分析しなければならない。得られた現実を受け入れ、課題を解決するための体系的な事業計画・施策・政策を策定し、実施していくことが極めて重要である。病院経営についても同様である。

医療法人社団崎陽会 日の出ヶ丘病院 院長  
東京医科歯科大学 名誉教授  
河原 和夫

このページは空白です

## 講演4 中村 正和 氏

(公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター・センター長)



青森県立保健大学MPHコース開設記念シンポジウム  
「青森県の健康を丸ごと探求し、世界へ還元するMPH」  
(2022年9月3日)

## 私が考えるMPHコースの役割と期待

### 地域医療と公衆衛生の協働による 地域の健康課題の解決

1. 地域医療振興協会における活動紹介
  2. 青森県立保健大学MPHコースへの期待  
目指すもの、育成する人材、求められる資質
- 公益社団法人 地域医療振興協会  
ヘルスプロモーション研究センター  
中村正和

### 公益社団法人 地域医療振興協会とは

- ・ 地域医療の確保と質の向上をミッションとしている
- ・ 主な事業は、施設運営、医師派遣・診療支援、総合医の育成
- ・ へき地を含め、全国で医療施設(病院、診療所)、老健等の複合施設(計83施設)を運営、多くは自治体からの指定管理
- ・ 本部に地域医療研究所があり、ヘルスプロモーション研究センターは同研究所に所属  
ヘルスプロモーションの観点から、地域医療の質の向上や地域の健康指標の改善につながる実践・研究活動を行うことをミッションとする。
  1. プライマリケアにおける医療の質向上を目指した実践的研究  
(ポリファーマシー、糖尿病の診療の質改善、ACPなど)
  2. 自治体や協会施設等と連携したヘルスプロモーション活動の地域展開  
(フレイル予防、生活習慣病対策など)

## 青森県立保健大学MPHコースに期待すること

### 目指すもの

オンリーワン (地域や大学の強みを生かして特徴をだす)  
地域の強み: 自然、伝統・文化、県民性 (頑固、誠実) 短命県?  
大学の強み: 県立、多職種の人材育成  
県、市町村、企業等と連携した戦略的な人材の育成 (オール青森・ワンチーム)

### 育成する人材

地域社会が抱える健康関連課題を総合的に解決できる能力を持つ人材  
地域住民が元気に安心して暮らせるまちづくりに貢献

### 人材に求められる資質

パッション 地域を愛し、人々の健康と幸福を願う  
マインド 公衆衛生マインド⇒地域という患者を診る・看る  
能力 課題解決力 ・ 連携協働力 ・ アドボカシー力

## 事例1 「東通村発」青森県短命県返上プロジェクト

- ★ 上位目標を設定したヘルスプロモーション  
村民にとって関心の高い地域の活性化、伝統や文化の継承を上位目標として設定
- ★ 住民と組織団体のそれぞれの主体的参加による取組み  
住民の主体的参加に加えて、各種団体を「継糸」、地区組織を「横糸」としたハイブリッドによる重層的取組み



# キーパーソンワークショップの開催

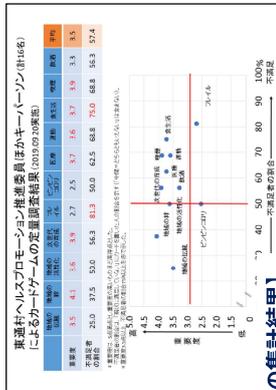
- 1回目：役場・学校・伝統芸能関係のキーパーソン26名（9月6日）
- 2回目：産業関係のキーパーソン27名（11月9日）
- 3回目：重点地区（白糠地区）のキーパーソン27名（2020年2月6日）

目的：健康課題の共有と村が元気になるための意見交換  
 内容：げんき度測定、カードゲーム、村の健康課題の講義とGW

- 結果：
- ◆「地域の絆」、「地域の伝統」は重要度、現状への満足度が高かった
  - ◆「地域の活性化」、「次世代の育成」、「食生活・運動・喫煙などの生活習慣改善」は重要度が高く、それらの改善を望んでいた。



【カードゲームの様子】



【量的データの集計結果】

# 青森県東通村「村民健康チャレンジ」事業

コロナ禍での行動変容のきっかけと地域のつながりを目的  
 コロナに負けないボスターの全戸配布→行動宣言と1カ月間の健康チャレンジ  
 村の特産品を使った景品や参加賞（インセンティブ）  
 村のいいところ、次世代に引き継ぎたいこと、そのためにできたらよいことを記載  
 してもらい、健康チャレンジの結果と合わせて、みんなまで共有

2回開催（2019年9月、2020年3月）  
 参加者数 616人（地域6割、職域4割）  
 記録提出約7割、目標達成（21日以上）約5割

# 「東通村発」短命県返上プロジェクト

～来ささい！7チェック～

当初2020年度予定  
 →2022年度以降実施予定



\*「来ささい！」青森県でおいで！

# 東通村厚労省大規模実証事業

東通地域医療センターでの講演－自治体と医療センターの連携強化にむけて

東通地域医療センターのスタッフや研修医等を対象に  
 減塩対策の講演を実施（10月7日）



（川原田先生、佐々木先生ほか、研修医2名、専攻医2名、NDC1名が参加）

（注）医療センターの保健師2名は、8月24日の研修会に参加

## 事例2 嬭恋村での地域ぐるみのフレイル予防事業

2016年3-4月 高齢者調査 (男女ともに約30%がフレイル、80歳以上では約50%)  
 2016年9月からサポーター養成を開始、2017年5月からフレイル予防教室を実施

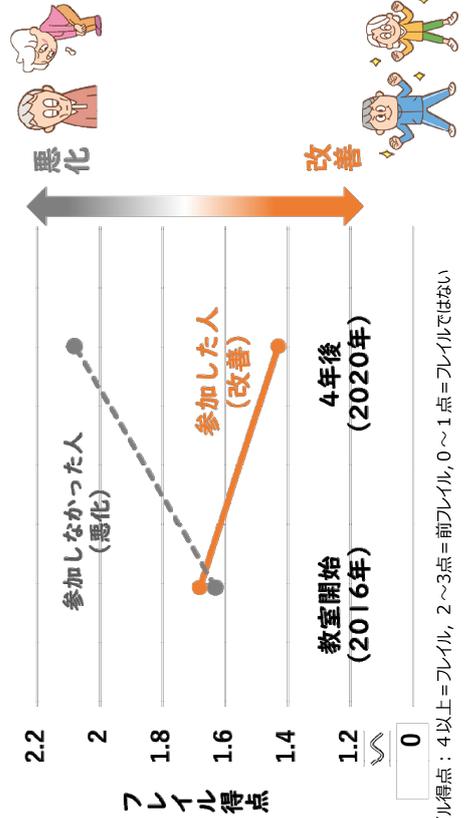


これまで約60名のサポーターを養成  
 村内6地区7カ所(全体11地区)に展開  
 参加者は65~85歳人口の10.4%  
 (2020年高齢者健康調査の結果・未回答は不参加として算出)

## 嬭恋村でのフレイル予防事業の評価

**参加者はフレイルが改善、不参加者は悪化**

もともとのフレイル状態を調整したうえで、教室開始時(2016年)のと4年後(2020年)の状態を比較



※フレイル得点：4以上=フレイル、2~3点=前フレイル、0~1点=フレイルではない

## 兵庫県養父市での地域ぐるみのフレイル予防の評価

予防教室の開催  
 3年間で全地区の23.4% (36/154行政区)  
 実施地区では**32.8%、市全体で8.1%**  
 フレイルの有病の減少、改善の増加  
 (東京都健康長寿医療センター研究所との共同研究)



兵庫県養父市におけるシルバー人材センターを機軸とした  
 フレイル予防施策のプロセス評価およびアウトカム評価

野藤 忍<sup>1)</sup>、清野 謙<sup>2)</sup>、村山 友恵<sup>3)</sup>、谷須 知美<sup>4)</sup>、中村 正和<sup>5)</sup>  
 1) 養父市 2) 養父市 3) 養父市 4) 養父市 5) 養父市

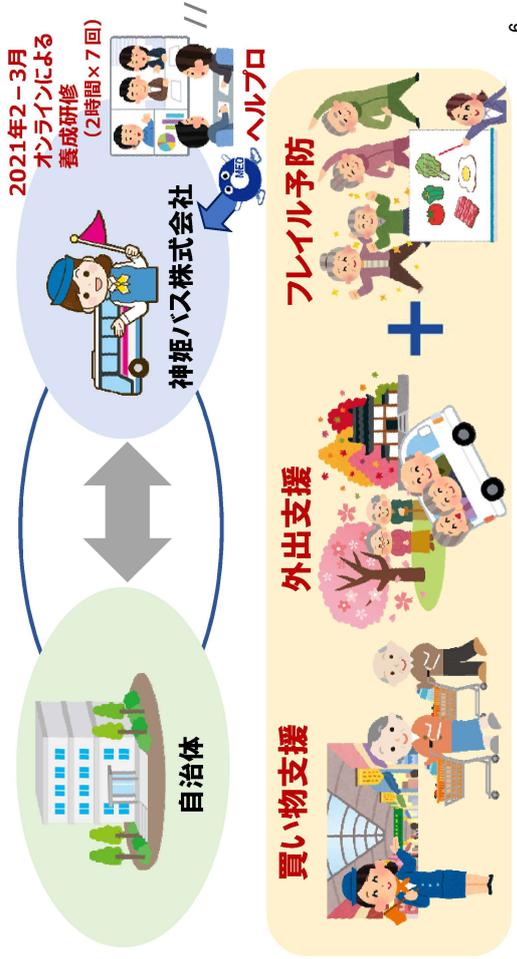
目的 兵庫県養父市にて、2011年よりフレイル予防を目的としたアクションリサーチに取り組み、きた。その方策は、「行政区ごとにフレイル予防施策を創る」というものである。最大の成果は、表意の強い手回しを創るために、「研修を受けたシルバー人材センターの会員が仕事として市内の各地区に出発し、表意を運ぶ」ということである。本研究では、このフレイル予防施策（表意モデル）の効果および地域への応用可能性を示すことを目的とした。

方法 ポピュレーションベースの評価モデルであるPAREMの枠組みに即して、1拠点目を開設した2014年から2017年までの3年間のプロセスおよびアウトカム評価を行った。アウトカム評価にあたっては、2012年および2017年に市内在住の高齢者を対象に郵送調査法による調査を実施した（回収率：90.7%、85.7%）。

結果 (1) Plan (計画)：運動、栄養、社会プログラムからなる週1回60分、6か月間、全20回の教室を基本コースとし（途中、1.5か月間、全6回の短期コースも開設）、終了後は自主運営化を図ることとした。1年目は3地区、2年目は10地区ずつ教室を開設することを目標とした。

## バス会社と協働したフレイル予防事業の展開 バスガイドをフレイル予防のサポーターとして養成

バス会社が自治体から受託する高齢者の買い物支援・外出支援事業に  
**フレイル予防をプラス**



# 路線バス × ショッピングセンター

お出かけ支援、買い物支援、仲間との交流、フレイル予防

特典：2,000円お買い上げ、300円の復路バス乗車券を提供

**フレイル予防教室**

日時：5月30日 10:45分～11:45分(約1時間)

会場：ゆめタウンポップアップホール

参加対象：神保グリーンバス(神保)でゆめタウンへお越しの方

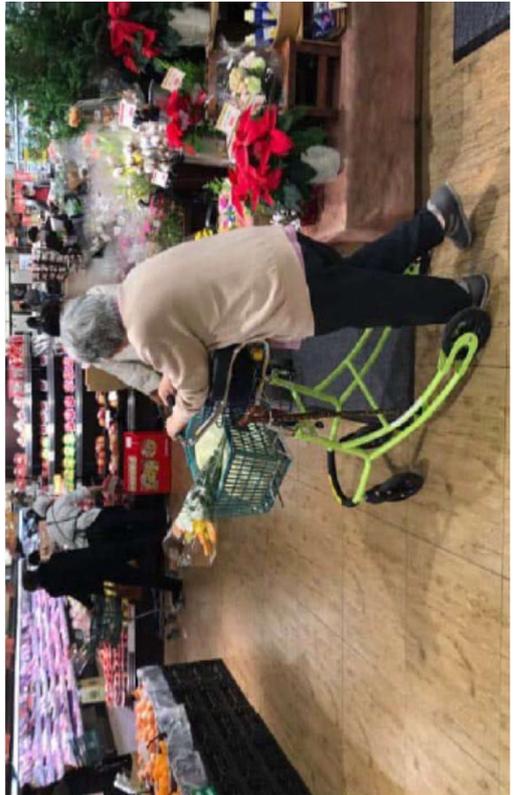
特典：お買い上げ2,000円以上 300円復路バス乗車券

予約：079-552-1157 (09時～17時)

## 専用の買物カートを活用したショッピング・リハビリ

月刊地域医学2021年8月号 特集 New Normal時代のヘルスプロモーション活動  
「ショッピング・リハビリによるフレイル予防-コロナ禍でのチャレンジ」

ショッピングリハビリカンパニー株式会社 取締役Founder 杉村卓哉



地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター主催

## フレイル予防セミナー

フレイル予防の新たな地域展開を目指して

座長 地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター 中村正和

16:00～16:10 話題提供

フレイル予防の現状と課題

講師：地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター 川畑輝子

16:10～16:35 事例発表①

バス事業者として取り組むフレイル予防

講師：神姫バス株式会社 地域事業本部 地域事業推進課 主任 津村 拓也氏

16:35～17:00 事例発表②

スーパー事業者とコラボした「ショッピングリハビリ」

講師：ショッピングリハビリカンパニー株式会社 代表取締役 尾添 純一氏

17:00～17:25 事例発表③

タクシー事業者、地元商店、ボランティアなどの地域協働による買い物・外出支援

講師：群馬県渋川市社会福祉協議会 生活支援課 課長 登坂 将志氏

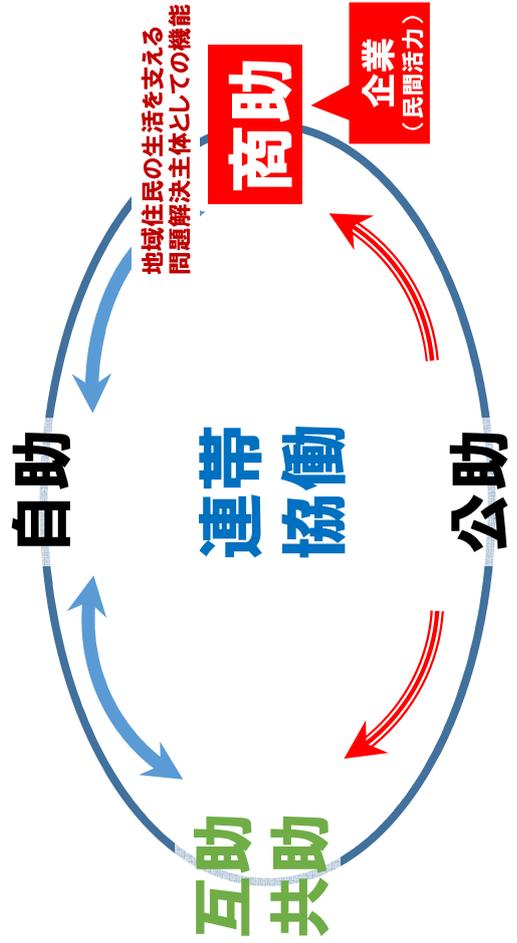
17:25～17:40 総括

地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター 中村正和

ヘルプロHPでアークライブ配信中

## 持続可能な高齢社会の実現に必要な力

4つの助け合い+商助(民間企業の力、活動)



# 青森県立保健大学MPHコースに期待すること



育成する人材

地域社会が抱える健康関連課題を  
総合的に解決できる能力を持つ人材



地域住民が元気に安心して暮らせるまちづくり

## 人材に求められる資質

**パッション**  
地域を愛し、人々の健康と幸福を願う

**能力**

- ✓ 課題解決力(アクションリサーチ、社会実装研究)
- ✓ 連携協働力(多職種連携・多機関連携)
- ✓ アドボカシー力(課題広報、政策提言)



**マインド**  
公衆衛生マインド  
⇒ 地域という患者を診る・看る

## 目指すもの

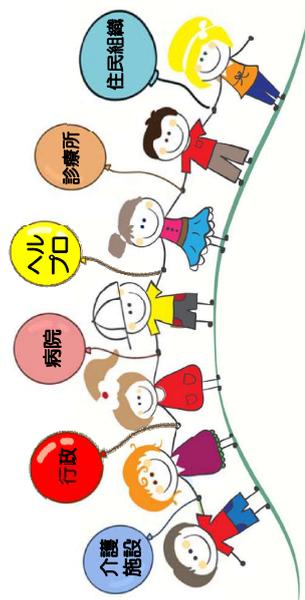
オンリーワン(地域や大学の強みを生かして特徴をだす)  
県、市町村、企業等と連携した戦略的な人材の育成(オール青森・ファンチーム)

ご静聴ありがとうございました

# みんなの健康を みんなで守る

## Look Think Act

(みんなで見で) (みんなで考えて) (みんなで行動する)



ヘルプロモーション研究センター

★活動の詳細は、ヘルプロのホームページをご覧ください



このページは空白です

## お 願 い

- 感染症対策(マスク着用、手指消毒、咳エチケットの励行)のうえ、御参加ください。
- 入場時の検温・手指消毒にご協力ください。
- 会場内での大きな声での会話はお控えください。
- 座席は一つ空けてお座りいただくよう、ご協力ください。
- 本学敷地内は、全て禁煙となっております。
- 携帯電話等の電源はお切りくださるか、マナーモードに設定願います。
- お帰りの際は、お忘れ物のないようお願いします。



### アンケートについて

シンポジウム終了後、アンケートへの御回答をお願いします。  
下記 URL または二次元バーコードから、専用フォームにて御回答ください。  
(後ほど、メールでも下記 URL をお送りいたします。)

URL <https://forms.gle/FA4Hw9ZaMAQUFfeq5>

期限 令和4年9月6日(火)

